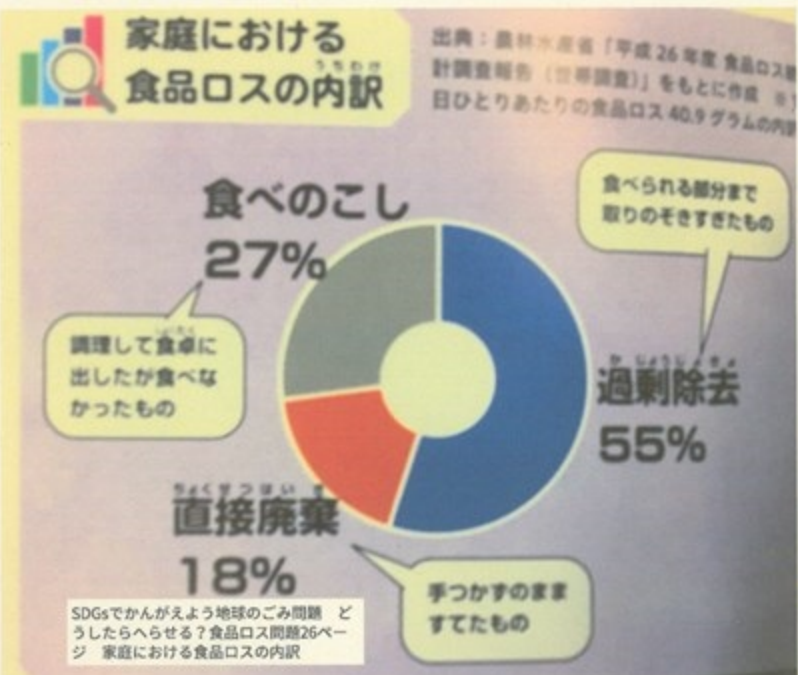




## 家庭内の食品ロスを減らし、自然環境を守る！

現状



環境への影響

**エネルギー消費と環境負荷**

食品廃棄物は、多くの場合焼却処理されますが、これにより大量のエネルギーが消費され、さらなる二酸化炭素排出につながっています。また、焼却処理にはダイオキシンなどの有害物質の発生も懸念されており、環境負荷が増大しています。

**地球環境への悪影響**

食品ロスは、食料生産に関連する資源の消費も無駄にしています。水資源や農地、化学肥料などの消費が、生産された食料が廃棄されることで無意味になります。さらに、食料生産は森林破壊や生態系の破壊、水質汚染などの環境問題を引き起こしています。

(ロスゼロ)

課題

なぜ、食品ロス削減が必要なの？

食品ロスを放置すると、大量の食べ物が無駄になるだけでなく、環境悪化や将来的な人口増加による食料危機にも適切に対応できません。日本の食料自給率は先進国の中でも低く、多くの食べ物を海外からの輸入に頼っています。しかしながら、多くの食品ロスを生み出しているという状況が課題です。



## DEKIRUKOTO

賞味期限が切れる直前の食べ物を取って食品ロスを減らす。残ってしまった食べ物も持ち帰ることで、食品ロスを減らすことができる。家に残っている食材で、できる料理で食品ロスを減らすことができる。賞味期限や消費期限が切れてしまうと、美味しくなくなって、食べられなくなってしまいます。食べ物を美味しく食べるため、賞味期限や消費期限が近い食べ物にとって食品ロスを減らすことが大切です。後は、残ってしまったものを持ち帰ることで、食品ロスを減らすことができ、二酸化炭素の減少につながり、家事も簡単にできます。

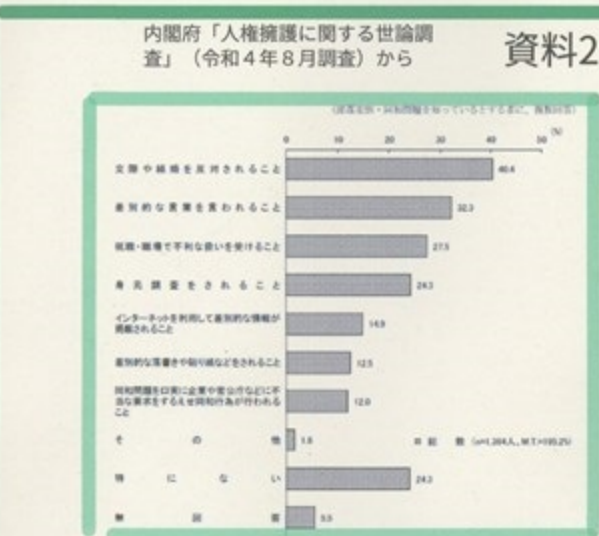
納豆スパニッシュオムレツ



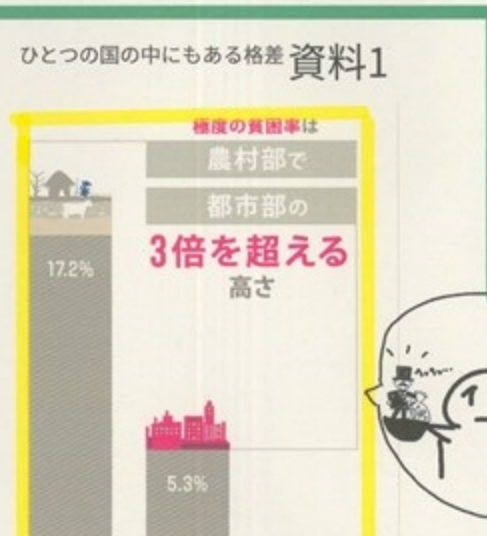
## 人や国の不平等をなくそう

参考…公益財団法人日本ユニセフ協会  
法務省

以上から、差別や不平等は外国だけではなく、日本でもたくさん起こっていることが分かります。一度だけでもいいので、「差別」について考え直してみたらどうでしょうか。



資料2では、日本国内で起きている差別の種類を示しています。この資料で分かるのは、差別問題は意外と身近にあることです。もしかしたら知らないうちに、身の回りの誰かが差別されているかもしれません。



資料1は、極度の貧困率は農村部で都市部の3倍を超える高さであることを示しています。この資料を見ると、農村部と都市部だけで、貧困率にとても大きな差が生まれていることが分かります。僕は、このような現状を理解している人は、多くないと思います。

世界中には貧しい人や、差別されている人がたくさんいます。僕はこのような人がいることをたくさんの人に知ってもらわなければならないと思います。なぜなら、貧しい人は農村部に特に多く、そのような人の差別は外国だけでなく日本にもあり、他人事ではないからです。